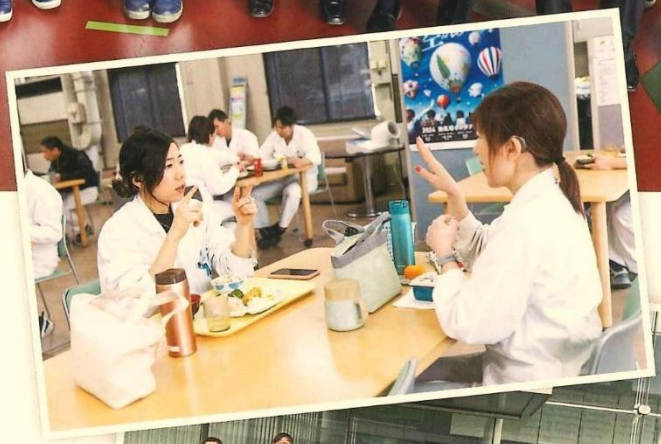
HONDA
The Power of Dreams

How we move you.
CREATE ▸ TRANSCEND, AUGMENT

ホンダ倶楽部会誌 季刊 No.175
2025年 夏号

絆 Kizuna



Honda最前線

Special Feature

「人間尊重」を実践する障がい者雇用の50年

写真：上／株式会社研進・社会福祉法人進和学園
中／希望の里ホンダ株式会社　下／ホンダ太陽株式会社（和光事業部）

1.しんわルネッサンスの工場内。作業着はHondaと同じく白色に　2.訪問を歓迎していただいた株式会社研進と社会福祉法人進和学園の皆さん。前列中央が研進社長の出縄貴史さん　3.（写真左から順に）OBの吉見幹雄さん、現役従業員の新口哲哉さん（車体購買部）、阪井雅彦さん（人事部）　4.Honda車の部品を組み立てる現場で作業の様子を見学

「人間尊重」を実践する障がい者雇用の50年

Honda 最前線 vol.03

Honda車の部品組立を担う研進・進和学園の福祉工場「しんわルネッサンス」に、ゆかりのあるOBと現役従業員たちが訪問。Hondaフィロソフィーの「人間尊重」に基づいた、半世紀にわたる障がい者雇用の歩みを紹介します。

Hondaが長年続けてきた障がい者雇用 根底にある企業理念とは

Hondaは各事業所における障がい者雇用のほか、障がい者の活躍の場としてホンダ太陽株式会社（大分県日出町）と希望の里ホンダ株式会社（熊本県宇城市）という特例子会社２社を設立し、それらの運営を通じて先進的な障がい者雇用の取り組みを続けてきた。

「本田宗一郎さんが『社会福祉法人太陽の家』を訪れた際に、障がい者の方々が働く姿に大きな感銘を受けて、『よし、やろう！ Hondaもこういう仕事をしなきゃダメなんだ！』と決意されました。Hondaの障がい者支援は、Hondaフィロソフィーの人間尊重に基づき、障がい者・健常者に関わらず、皆が働く喜びを分かち合うことが根底にあるのです」（人事部･阪井雅彦さん）

実は1981年のホンダ太陽設立前から、Honda車の部品加工やその組立作業を通じて、Hondaとともに長年にわたり障がい者の自立支援に取り組んできたお取引先がある。神奈川県平塚市にある株式会社研進だ。2025年3月、ゆかりのあるＯＢと現役従業員がこの研進を訪問。今回はそのレポートをお届けする。

5.2009年に吉見さんが施設内に記念植樹したアカガシの木
6.しんわルネッサンスの「湘南とまと工房」で生産されているジュース。取材当日は「絆 ご来訪記念」の特製ラベルも

連続ミスゼロ記録の更新は粘り強く取り組んだ成果

株式会社研進は現社長・出縄貴史さんの父で、HondaOBの光貴さんにより1974年に設立。光貴さんの弟・明さんが1958年

株式会社研進創業者の故 出縄光貴さん

に開設した知的障がい者の入所施設「社会福祉法人進和学園」の営業窓口を担い、社名は本田技研工業の「研」と進和学園の「進」から付けられた。設立時には、浜松製作所のスタッフが技術・安全面の指導を担当。その後も品質保証と工程管理の向上に粘り強く取り組み、その成果の一つとして、2007年に品質マネジメントシステム「ISO9001」認証を知的障がい者が働く福祉工場において日本で初めて取得。部品組立作業の80カ月連続ミスゼロ記録も継続している（2025年2月現在）。

「障がい者と職員が両輪となり、作業ミスが起きないような仕組みが構築されていることがすばらしいと思います」（車体購買部・新口哲哉さん）

1974年から続く心の触れ合い 思い出のエピソードも

業務以外でも研進の皆さんとは、さまざまな形で交流を深めてきた。購買部門が毎年12月に企画するクリスマス会は51回を数える伝統ある会で、サンタやトナカイに扮したり、クリスマスカードやケーキのプレゼントなどが恒例になっている。

そうした交流の中から実に心温まるエピソードも生まれた。OBの吉見幹雄さんは、専務取締役当時の2009年に研進を訪問。その際に秋山博文（あきやまひろふみ）さんから手作りの名刺をもらったが、あいにく自身の名刺を切らしてしまっていた。申し訳なく思った吉見さんは後日、お詫びの手紙に名刺を同封して郵送。その心遣いに出縄さんが感激し、届いた手紙は現在も施設内に展示されている。そしてこの度、2人の再会が実現。16年越しに直接名刺を渡すことができた。

2009年3月の来訪時。手前左が吉見さん、右が秋山さん

再会時に秋山さん（写真右）へ社友の名刺を手渡しする吉見さん

定年退職後もボランティアで サポートを続けたOBの存在

OBの田島昭次（たじまてるじ）さんは浜松製作所に在職中の支援だけでなく、定年後も施設でのマジック披露など積極的なボランティア活動で研進・進和学園と長く親交を深めてきた。

「資材業務室にいた当時、研進さんの支援に通っていました。当時からクリスマス会はありました。定年後に再訪した際にもまだ名前を覚えていてくれて、大声で『田島さん!』と呼んでもらった時はうれしかったですね」（田島さん）

2024年10月21日、田島さんが12年ぶりにしんわルネッサンスを笑顔で訪問

植樹プロジェクトや食品加工にも ものづくりのノウハウを活用

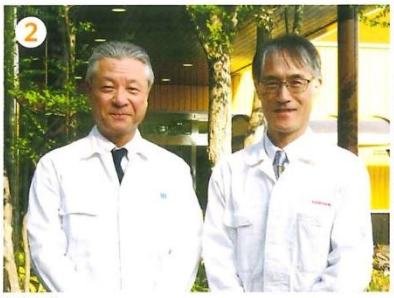
自動車業界を取り巻く環境変化を見据え、研進は事業の多角化を推進。2006年にスタートした「いのちの森づくり」は、2棟の大型ハウス内でドングリや木の実から苗木を育て、日本各所の植樹に提供。Hondaは寄居・小川工場の植栽にその苗木を利用したほか、「いのちの森づくり」基金への寄付を続けている。また、湘南産のトマトやみかんを使ったジュースづくり、製パン、菓子等の食品製造にも力を入れており、現場の衛生管理やHonda青山ビル・和光ビルでの商品販売をホンダ開発が支援してきた。

「我々が働くそれぞれの現場にはHondaさんに鍛えていただいたものづくりのノウハウ、品質保証と工程管理の力が染み付いています。50年の間に培ったこの財産を活かして、これからも種々の事業にチャレンジしてまいります」（出縄さん）

定期的に実施されている和光ビルでの販売会「おやつで社会貢献」

Honda特例子会社における障がい者雇用

Hondaは特例子会社制度に基づき「ホンダ太陽」「希望の里ホンダ」の2社を設立、職場環境の整備を進め、障がいのある人の自立支援や就労機会の提供を行ってきました。



1.困り事聞き取りをする希望の里ホンダ総務課・谷口直紀さん（写真左）　2.両社長のご紹介（写真左から順に、希望の里ホンダ・村上克也さんとホンダ太陽・鎌田雅仁さん）　3.大分と和光で開催されるホンダ太陽の忘年会には、多くの従業員が参加（写真は大分での忘年会の様子）

●希望の里ホンダ株式会社（熊本県宇城市）

希望の里ホンダは、1985年に熊本県・松橋町（現在の宇城市）・Hondaの共同出資により、自動車メーカー初の第三セクター方式で設立された心身障がい者雇用事業所です。主に部品組立や計測機器の検査、サービスマニュアルの印刷・製本・梱包を行っています。

“働きがいのあるノーマライゼーション工場”を目指して取り組んできた結果、従業員の約30%が勤続20年を超えるなど、働きやすい職場環境づくりの成果が着実に現れています。

●ホンダ太陽株式会社（大分県日出町）

ホンダ太陽は、「障がいのある人たちの社会的自立の促進」という理念のもと、大分県別府市にある社会福祉法人太陽の家の創設者である中村裕博士と本田宗一郎さんによって1981年に設立されました。現在328名の従業員が在籍し、そのうち206人が障がいのある人です。

二輪・四輪の部品製造のほか、CATIAによる各種データの作成、名刺製作、電子化業務、記念品製作、障がいのある人の雇用定着コンサルタントなど、多岐にわたる業務を行っています。

from KH

定期的に行う困り事聞き取りでは、基本的にすべての事案に対応します。これらの取り組みが“ノーマライゼーション工場の実現”に向けた活動につながっていると考えています。（総務課・谷口直紀さん）

社内講習会では、手話通訳者を介して説明が行われるため、内容がよく分かります。また、社内に手話ができる人が多く、仕事もスムーズです。（組立課・松原静乃さん／表紙写真左）

from HS

障がいのある仲間に一人でも多くホンダ太陽に加わってもらうため、2023年にHonda和光ビル内に和光事業部を新設、2025年には在宅勤務雇用を開始し、創設者の想いを具現化しております。

仕事以外でも地元への感謝を伝えようと「ホンダ太陽まつり」を開催。また、「Hondaビーチクリーン活動」をはじめ忘年会や運動会にも多くの従業員が参加しています。

人事部からのMessage

足立 竜平さん
（人事部長）

Hondaが続けている障がい者雇用の根底には「働く喜びを分かち合いたい」という宗一郎さんの理念が今も流れています。研進さまと取引を開始した1974年当時は、まだ世間で障がい者雇用が義務化される前でした。宗一郎さんがソニーの井深大氏に誘われて社会福祉法人太陽の家を視察し、ホンダ太陽を設立したのは1981年、続けて1985年には自動車メーカー初の第三セクター方式で希望の里ホンダを設立しました。

歴代OBの皆さまから受け継いだHondaの障がい者雇用の取り組みを知っていただくよう、副社長の貝原さんをはじめ関係者全員で、従業員に向けて積極的な情報発信を継続しています。Hondaは今後も変わることなく、障がい者と健常者がともに働き、ともに喜びを分かち合う社会の実現に取り組んでまいります。

人事部 キャリア・多様性推進室から発行されている「ダイバーシティ通信」